



月刊宮司プレス第二百二十三号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和六年十二月三十一日

◇宮司の柴田です。今年最後、納おさまの月刊宮

司プレス第二百二十三号の発行です。今年一

月の時点で、発行の遅れおその累積は三ヶ月でした。

一時期は、最大十三ヶ月の遅れが累積していま

したが、「キヤッチアップ ミッション」、いわゆる、遅れを取り戻す作戦を展開したことが

奏功そうこうして、累積を大幅に減らしたことになりま

す。ひと月に二回発行しなければ累積を減ら

せません。今年は、二号発行した月が三回もあり、八月によく、キヤッチアップが完了した

のでした。

◇過日の十二月十三日の金曜日、御神殿にお供

えをした「新米二十キロ」の袋を抱えましたら、腰に大きな負担がかかったのでしよう、腰から

背中に電流が流れたのではないかと思うくらい

の激痛が走りました。腰と背中を痛めてしま

いました。日常生活には支障がございませ

んが、敬礼作法、神様に対しての拝の角度が、正しい角度、九十度になるのが至難でありまし

て、閉口へいこうしています。ようやく、痛みもやわ

らぎ、正月の御奉仕にも支障なく、万全な形に

近づきつつあります。「腰」は、体の「要」

であることを痛感させられた昨今です。

◇さて、いよいよ明日は、新年を迎えます。令

和七年ですが、昭和に換算すると、何と百年で

すし、平成では、三十七年です。最近では、

グローバルな時間座標軸として「西暦」が用い

られるようになりました。厄年のお祓いでも

生年月日を西暦でお書きになる若い方も多くな

りました。うっかり、申込書を確認せずに、

元号に変換せずに祝詞を奏上しますと、大変な

ことになります。あろうことか、神様に「西

暦」を奏上することになってしまふのです。

ある司法書士の方から、西暦を元号に直す法則

を指南してもらったことがあります。「昭和」

元年は西暦一、九二六年です。昭和〇年は存

在しないのですが、昭和〇年を西暦一、九二五

年とするならば、元号への変換が可能です。

ちなみに、「平成〇年」は、西暦一、九八八年、

「令和〇年」は、西暦二、〇一八年となります。

私の生まれた年は、西暦一、九六二年です。し

たが、いまして、前述の法則で変換を試みますと、

一、九六二から一、九二五を引きますと、三十

七となり、私は、元号では、昭和三十七年です。

このように変換が可能です。幾度か、この法

則により、西暦表記だった生年月日を元号に変

換して、窮地を乗り切ったことがあります。

◇過日の二十五日、玄洋中、彦島中の美術部の

皆さんによる「大千支絵馬」の奉納がございま

した。裏面に写真を掲載されています。来年

の干支は動物では、「蛇」があげられています。

「蛇」は、世界に四千種類が分布し、平地か

ら四千メートル級の高地、ありとあらゆる

場所、さらに海にも生息しています。「蛇」

は、どうしても、「恐い」というイメージが

あります。それもそのはずで、足がなく、

鱗うろこを纏まとった細長い物体が地を這はう姿は、

気味が悪いものです。毒を持つ種類も多

いので、忌み嫌われて当然です。したが

いまして、生徒のみなさんは、今風に申し

しあげるならば、ポップなもの、親しみや

すいようにと工夫されました。祝詞では、

「みな人 蛇はしも おぞましきものぞ

と思はばこそ あいあいしく心やすきものにすべくしかけ」と奏上しました。また、蛇にあやかり、来年が、「生まれかわりよみがえり 再生 実りのある年」となるように描かれたそうです。そのことも祝詞で、「蛇はしも 古き皮を剥ぎて 身も心も清々しく立ち返り 新新に向かひしに なぞらい」と神様に御報告申し上げました。

◇来年の干支は、「乙巳」で、六十の組み合わせのある干支の四十二番目です。「乙

は、十干の二番目です。 十二支の六番目

である「巳」は、直接「へび」を表す象形

文字です。「木」のつかさどる二年目、

弟さんですから、木は木でも、「灌木、低木、

木の陰の働きの年であります。 陰陽

五行では、万物の根本である、「土、水、木、

火、金鉄」が、互いに不可欠な存在で、お

互いを助け合う働きを「相生」といいます。

「相性がいい」という慣用句は、この「相生」からきているといわれています。

◇さて、今年、木のお兄さんである大木と龍の組み合わせ、来年は、木の弟さんである低木と蛇の組み合わせです。何か、お気付きになられますか。龍も蛇も水神さんとあがめられていますし、木の働きの年です。これは、「水生木」という「相生」が、二年続くことになります。一切

の植物は、水によって養われ、水がなければ草木は枯れるしかありません。したがって、木は水によって生じているのです。蛇のように、古い皮を脱ぎ捨て、「水生木」という「相生効果」によって、万事うまく

運ぶ、実のある一年となることを願うものです。 干支についての詳述は、次号に掲載します。 午年から始めた「書初め色紙」、

来年で一巡します。 これから、三種類の干支にちなんだ色紙の構想と浄書に取り

組まなければなりません。「乾」という

天を意味する漢字や「紀」、「起」を使った熟語を考えています。この一年御愛読、心から感謝申し上げます。 良き年となりますようにお祈り申し上げます。

◇十二月の祭典行事報告予定も含む

▼大絵馬奉納奉告祭 *十二月二十五日



◇十二月の宮司動静

▼第十回彦島八幡宮杯ソフトボール 大会 *十二月一日



▼教诲(美祿社会復帰促進センター)活動

◆集合教诲女子 *十二月十六日

◆集合教诲男子 *十二月二十三日

▼講演活動

◆阿内八幡宮新嘗祭にて講演

*十二月十六日